

## Q&amp;A

## 左肝管に充満する肝腫瘍

## 【問題】

症例：60歳代，男性。

主訴：なし。

現病歴：多発性嚢胞腎，多発肝嚢胞，慢性腎不全にて他院に通院していた。肝胆道系酵素，腫瘍マーカー上昇を検出し，単純CTにて肝嚢胞に変化を認めたため，精査目的に当院へ紹介となった。

生活歴：喫煙なし，飲酒機会飲酒。

既往歴：9年前S状結腸癌，S状結腸切除術，pT3N0M0 stage II。多発性嚢胞腎，慢性腎不全。

常用薬：緩下剤。

血液検査：WBC 8000/ $\mu$ l，Hb 13.0g/dl，Plt 15.4

万/ $\mu$ l，Alb 3.2mg/dl，Cre 2.02mg/dl，AST 98IU/l，ALT 216IU/l， $\gamma$ -GTP 419IU/l，T.bil 0.4mg/dl，D.bil 0.1mg/dl，AFP 3.5ng/ml，PIVKA-II 26mAU/ml，CEA 15.2ng/ml，CA19-9 149U/ml，ICG-R15 7.2%，HBsAg (-)，HCVAb (-)。

CT，PET-CT，MRI，ERCP画像を示す (Figure 1, 2)。

上部下部消化管内視鏡検査に異常は認めなかった。

## 考えられる疾患は？

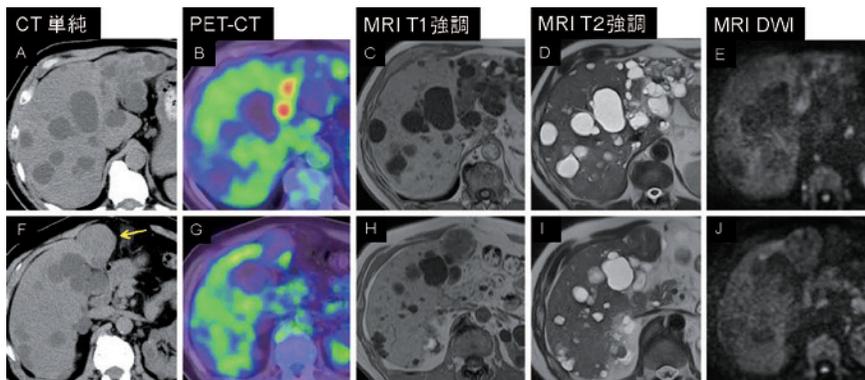


Figure 1. 画像検査：肝内に多発する嚢胞を認める。(A)門脈臍部右側に27×13mm大の等吸収域を認める。(B)PET-CTで同部位に異常集積。MRIでは(C)T1強調で軽度低信号，(D)T2強調で低信号，(E)DWIで高信号に描出される。(F)肝S4に45mmの円形等吸収域を認める(矢印)。(G)PET-CTでFDG集積なし。MRIでは(H)T1強調で軽度低信号，(I)T2強調で低信号，(J)DWIで低信号を呈した。多発性嚢胞腎にともなう慢性腎不全のため，造影CT/MRI検査は施行しなかった。



Figure 2. ERCP検査：左肝管が造影されず，左肝管を充満する腫瘍の存在が疑われる(黄色矢印)。胆汁細胞診：Class IIIb。